

DATA：神経内科

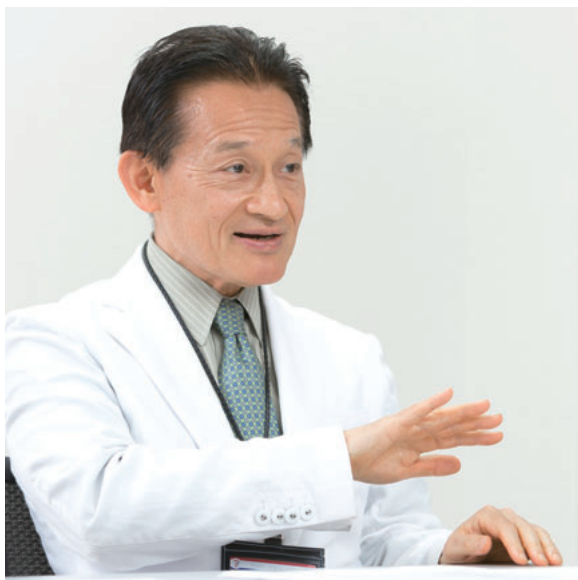
- 日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院
- 主な対象疾患：脳梗塞（急性期、慢性期）、片頭痛、末梢神経疾患（しびれ）、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、多発性硬化症、重症筋無力症、多発筋炎、髄膜炎、脳炎、ギラン・バレー症候群など

専門医4名、広範な疾患を診る

当科には4名の常勤医と1名の非常勤医がおり、全ての医師が、日本神経学会認定神経内科専門医の資格を持っています。そのうち1名は認知症、てんかん、パーキンソン病など、1名は神経免疫疾患、1名は急性期脳血管疾患、1名は筋肉、末梢神経の疾患と、在籍する専門医4名が異なる領域を得意としているため、診療科全体として広範な疾患をカバーすることができます。年間の患者数は約650名で、全て紹介です。

てんかんは、コントロールできる

神経内科領域は広範囲にわたり専門医も少ないため、診療所や近隣の総合病院からも紹介をいただいています。てんかんが疑われる症例は月10例ほど新規で紹介されてきますが、実は、てんかんは神経内科領域において薬剤でコントロールできる数少ない疾患のひとつです。患者様のうち7割は薬剤で完全に発作を抑えることができます。残りの3割



神経疾患は、幅広く、奥深い。

の患者様も、外科手術と薬剤を併用することで半数以上が症状をコントロールできるようになります。

現在、てんかんの治療目標は、幼児期：発達障害を起こさない、成人：就労を可能にする、老年期：認知機能を侵さない、というようにライフステージによって異なる目標を設定しています。患者様の状態とご希望とライフステージに沿って、専門医としての的確に診断し、治療方針を選択しています。



多様な認知症症状に立ち向かう

認知症においても専門性の高い診断が重要です。病型の分類も必要ですが、それ以上に重要なのが患者様の服薬状況の確認です。薬剤に誘発される認知機能障害、とくに睡眠薬、抗不安薬などの多剤投与患者様に多くみられる症状は、服薬を中止することで回復することもあります。日本老年医学会から「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015」も出されており、神経内科専門医はこうした薬剤を使用しない方向へ動いています。

一方、アルツハイマー型認知症では薬物療法が選択されます。薬剤選択、投与量などは当科専門医が決定しますが、日常診療は紹介元の診療所などをお願いしています。そのうえで、半年に1度は再診してもらい経過を観察するといった、ダブル主

歯科大学病院ならではの連携を求めて

神経内科

治医制をとっています。

また、院内活動では入院中の認知症患者様に対して、神経内科医、精神科医、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカーなど多職種が合同で診査を行う、せん妄認知症回診を行っています。これは将来、認知症ケアチームへと発展していく予定で、多職種が協働して認知症をケアしていく体制の構築を進めています。

頭痛への新たな試み、口腔顔面痛外来

すでに運用を始めている脳神経外科との連携「脳卒中センター」をはじめ、当科では他科との連携を常に模索しています。そのなかで、この6月からは新たな連携が始

まりました。歯科・口腔外科と連携し、口腔顔面痛外来を開始します。頭痛と口腔顔面痛は非常に関連が深く、診断にも専門性が求められます。群発頭痛は歯痛と間違われることが多く、患者様から抜歯を要望されるようなケースもあります。歯痛や頭痛に対して歯科領域の検査を通して原因がわからない痛みがあれば、神経内科の視点での検査が必要になります。頭痛を専門とする医師が協働で診査・診断することで、痛みを解消できると考えています。

以上のように当科は多様な連携を実現し、地域医師会のみならず、歯科医師会のみならずとの連携も視野に入れ、今後も診療を進めていきます。

患者様紹介について

神経内科領域でなにかありましたら、ご遠慮なくご紹介ください。その際、おわりの範囲で、患者様が現在服用されている薬剤を示していただけると幸いです。また、家族環境もおわかりでしたらお知らせください。ご家族に介護力があるか、主介護者は誰かなどを把握させていただきたく思います。

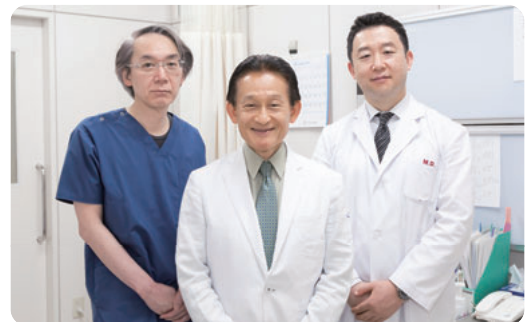
information

市川リレーションシップカンファレンスを開催します

地域のみなさまに安心して医療を受けていただくための体制構築に向けた、東京歯科大学市川総合病院と地域の先生方を結ぶ新たな取り組み“市川リレーションシップカンファレンス”。紹介・逆紹介においてそれぞれの専門性を最大限に活かせるように、相互理解を目的としたカンファレンスです。

- ❖ 日程：平成29年7月10日(月)
- ❖ 時間：19:30～21:00
- ❖ 場所：東京歯科大学市川総合病院 角膜センター3階会議室

- 1) 高齢者てんかんと認知障害の最新情報
- 2) 脳卒中の地域連携の実例
- 3) 口腔顔面痛とは ～医科歯科連携で取り組む疾患～



准教授
岡田 聡

教授
村松 和浩

准教授
小泉 健三

みなさまのご参加、お待ちしております。

医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者様のご紹介などを円滑に行えるように、「地域連携・医療福祉室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

地域連携・医療福祉室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時 土曜日：午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)